

令和3年1月5日

建設工事発注機関 御中

建災防島根県支部 御中

島根労働局労働基準部健康安全課

死亡・重傷等労働災害発生速報

管内において、下記の労働災害が発生しましたので、関係事業場等へご周知ください。

記

- 1 発生日時 令和2年12月31日（木） 午前2時30分 頃
- 2 発生場所 松江監督署管内
- 3 被災者 性別 男・年齢 64 歳
- 4 請負形態 -

5 災害の概要

12月31日午前2時、A事業場の駐車場の除雪作業するため、自宅を自家用車によりA事業場の駐車場に向けて出発したところ、積雪のため駐車場に入れず、駐車場から600m離れたところに自家用車を駐車し、駐車場に歩いて向かったところ、同日午後3時30分頃、A事業場の敷地内で倒れているところを発見されたもの。

なお、除雪作業は午前4時から開始予定であり、被災者は午前2時30分頃、被災者の所属事業場の代表者に携帯電話でA事業場の駐車場付近に到着した旨を連絡している。死亡原因については調査中。

※速報のため、調査した結果、被災者が労働者ではない場合があります。

STOP! 冬の労働災害

ラ・ニーニャ発生! この冬特に注意!!

積雪・凍結による転倒を防ごう!

平成29年秋から平成30年春までラ・ニーニャが発生し、山陰地方では記録的な豪雪や低温に見舞われました。

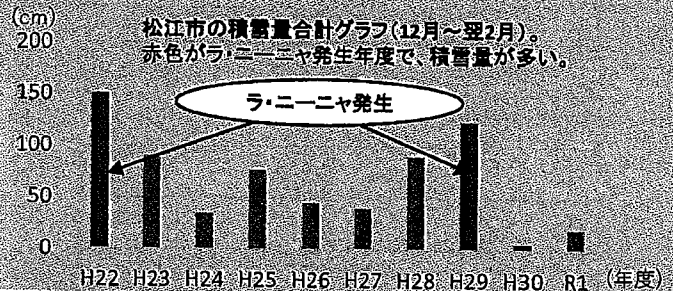
その影響で、平成29年12月から30年2月までに、鳥取・島根両県では、積雪・凍結に起因する休業4日以上労働災害が多発しました。このうち約8割が転倒災害であり、2月4日の大雪後に多く発生しています。また、自動車運転中の事故や雪おろし作業時の事故も起きています。

気象庁の長期予報によると、今年の夏に発生したラ・ニーニャは冬にかけても続く可能性が高いと予想されていますので、この冬においては前回同様に、山陰で記録的な豪雪や低温に見舞われる可能性が高いと思われます。

これまで以上に、積雪・凍結に起因する労働災害、特に転倒災害の防止に万全を期してください。

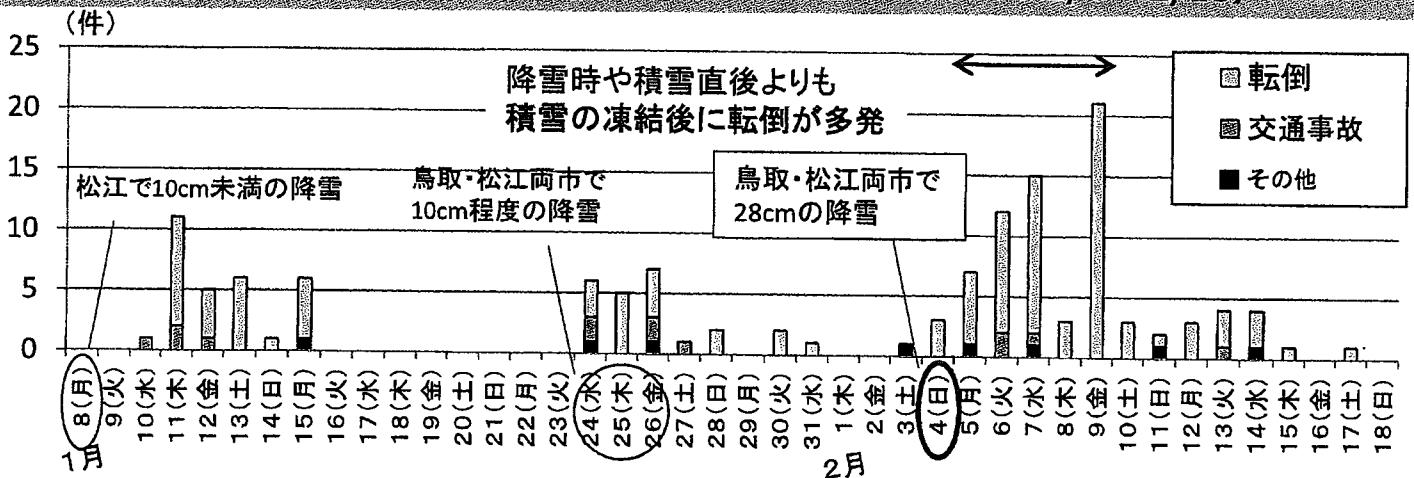
※ラ・ニーニャって??

太平洋赤道海域の日付変更線付近から南米沿岸にかけて海面水温が平年より低くなり、その状態が1年程度続く現象。山陰で過去10年に限ってみれば2回中2回とも、ラ・ニーニャの年には必ず大雪・低温災害が発生しています。



ラ・ニーニャが発生した平成29年度の冬、どんな災害が多発した?

鳥取・島根での積雪・凍結による労働災害の発生状況 (H30 1/8～2/18)



被災者の年代……50歳以上が7割……高齢になるほど転倒リスク大
 被災場所………駐車場が4割………駐車場では歩行中に加え、車から降りた瞬間の転倒も多発
 休業見込期間……1か月以上が6割……被災者の3人に2人が骨折し、休業期間も長期化傾向

事業場ではどんなことに取り組みばいいの？

今すぐ	降雪・寒波予報時	積雪時
<input type="checkbox"/> 凍結危険箇所の把握 雪が踏み固められて凍結しやすい駐車場、屋外通路、建物出入口など事業場敷地内の危険箇所を把握しましょう	<input type="checkbox"/> 通勤・帰宅への配慮 労働者が安全に出勤・帰宅できることを優先し、必要に応じて勤務時間を柔軟に変更しましょう	<input type="checkbox"/> 危険箇所の凍結防止 把握した事業場敷地・建屋内の危険箇所の除雪、凍結防止対策（融雪剤、砂の散布等）を徹底しましょう
<input type="checkbox"/> 凍結危険箇所の見える化 把握した危険箇所は表示や危険マップで「見える化」をしましょう	<input type="checkbox"/> 転倒防止マットの設置 建物出入口には雪や水分を拭き取るためのマットを設置しましょう	<input type="checkbox"/> 4S（整理・整頓・清掃・清潔）の徹底 建物内出入口付近や通路等の水濡れはすぐに拭きましょう

通勤・外出時はどんなところに気を付けばいいの？

STEP 1 転びやすい場所を知る

徒歩であっても油断は禁物。以下の場所では雪が踏み固められ、特に滑りやすくなります。

横断歩道

白線は氷の膜ができやすいので歩かない



バスの乗降場所

乗降は手すりにつかまり 慎重に



マンホール・側溝のふた

きちんと足元を見て回避！

駅やお店の出入口付近

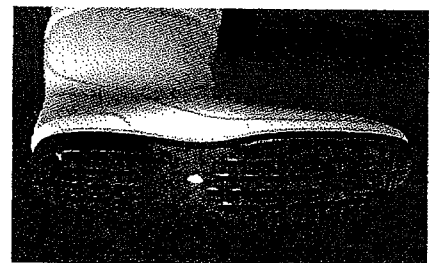
建物内外の出入口付近は転倒多発地帯

STEP 2 転びにくい歩き方を知る

滑りにくい靴をはく

革靴、ハイヒールは危険です。
柔らかいゴム底や、溝の深い靴（※）を着用しましょう。

※溝に雪が詰まると滑るので注意！



ゴム底靴

小さな歩幅でゆっくり歩く

小さな歩幅で、足の裏全体で着地し、ゆっくりと歩きましょう。
そのためには時間に余裕をもった行動が不可欠です。

両手はあける

ポケットに手を入れたり、両手に物を持っていると、バランスを崩しやすく、転倒時に受け身がとれません。手袋を着用すれば転倒時の手の保護にもなります。

車を運転するときはどなたどこに気を付けばいいの？

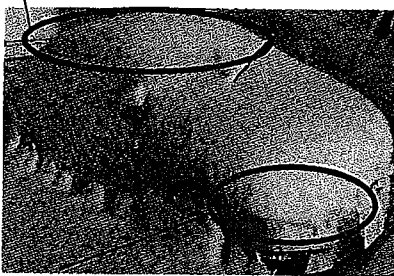
冬季は降雪や路面の凍結によるスリップや、吹雪による視界不良等により交通事故が発生しやすくなります。また、一昨年、福井県を襲った大雪では、立ち往生中にマフラーが雪に埋まり、車内にいた人が一酸化炭素中毒で死亡する事例が複数発生しました。

STEP 1 常備品の確認

- タイヤチェーン (スタッドレスタイヤは万能ではありません)
- ジャッキ
- 懐中電灯
- 軍手
- スコップ
- フォースターケール
- 防寒具 (毛布、使い捨てカイロ)
- 砂袋
- 水、非常食
- 牽引用ロープ
- 携帯電話
- アイススクレーパー
- 解氷剤

STEP 2 発車前の除雪

屋根の雪も必ず落とす

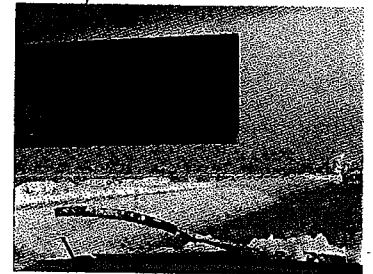


ウインカーも忘れずに

屋根上の雪はブレーキ時にフロントガラスに滑り落ちて視界をふさいだり、後続車の前に落下したりして大変危険です。

右の写真では、屋根に残っていた雪がリアウインドウに落ち、バックミラーによる後方確認ができません。

バックミラー



また、ウインカー、ヘッドライト、テールライトの除雪を怠ると他のドライバーに合図ができず、思わぬ事故につながります。

STEP 3 運転時のポイント

積雪・凍結時はスピードは控えめに、普段より車間距離を長めに確保し、急発進・急ブレーキ・急ハンドルなど急のつく動作を避けましょう。視界不良時の点灯も忘れずに。目的地までは、できるだけ、除雪されていることの多い幹線道路を利用しましょう。

要注意！ 特にスリップしやすい場所

トンネルの出入口付近

トンネル内は雪が積もっていないためスピードを出してしまいがちですが、出入口付近は日陰となり凍結していることが多く、急に明るいところに出た時のまぶしさにより路面状況の確認も難しいため、大変危険です。

橋

吹きさらしのため凍結しやすく、他の道路が凍結していなくても凍結している場合があります。

交差点

多くの車が行き交うことで路面が磨かれ滑りやすくなっています。

下りカーブ

予め速度を落としエンブレムの使用をこころがけましょう。



STEP 4 立ち往生時の注意と備え

マフラーが雪に埋まった状態でエンジンをかけ続けると、排気ガスが車内に充満し一酸化炭素中毒になる恐れがあります。

立ち往生が長時間に及ぶ場合は、マフラー付近をこまめに除雪し、同時に窓を少しあけて換気しましょう。

また、毛布やカイロなどの防寒具を常備しておくことにより、燃料切れに備えることも必要です。³

屋根上での雪下ろし作業時に墜落・転落しないためには？

作業は必ず2人以上で！大雪・強風等の悪天候時のみならず、暖かい日も雪が滑りやすく危険です。雪を落とす場所周辺は立入禁止にするとともに、自らも屋根からの落雪や投雪時等の水路への転落に注意しながら、作業を行いましょう。

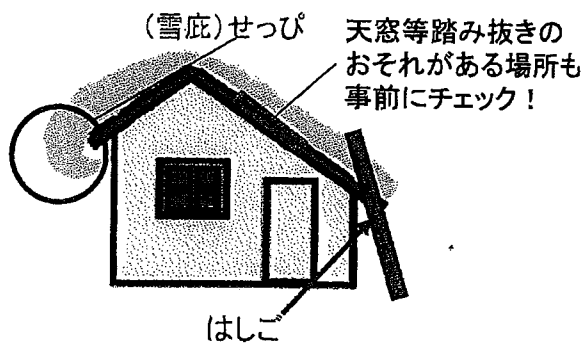
STEP 1 必要な装備

- 滑りにくい靴
- 動きやすい服装（目立つ色が良い）
- 手袋
- 携帯電話・・・緊急連絡用
- フルハーネス型墜落制止用器具（命綱）・・・墜落防止のため必ず着用（6.75m以下なら胴ベルト可）
- 墜落防止用保護帽（ヘルメット）・・・緩衝材として発泡スチロールなどが入っているものを着用

STEP 2 はしごの設置

雪庇の除去

- 軒先からせり出している雪（雪庇）を予め除去し、はしごをかける。



はしごの固定

- 適当な傾斜（75度程度。はしごの説明書を参照）にし、上部を屋根から60cm以上出す。
- はしごの転位防止のため、屋根上の落雪防止用金具にロープを回すなどにより、固定する。
- はしご上部の固定が困難な場合や固定前のはしごの昇降時は下方を他の人が支え、転位を防止する。

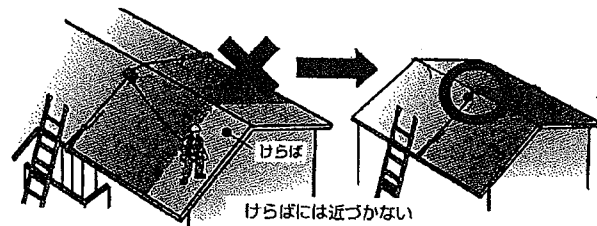
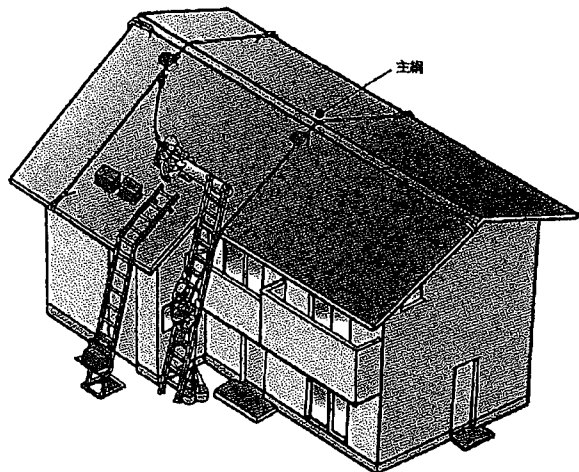
不安定な状況では落ちてしまう...



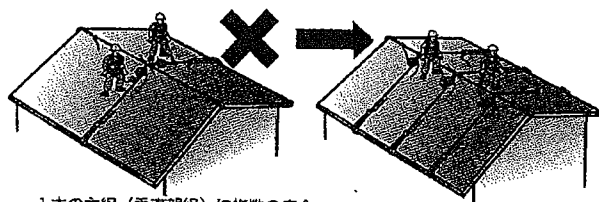
STEP 3 屋根上での作業

垂直親綱（主綱）の設置

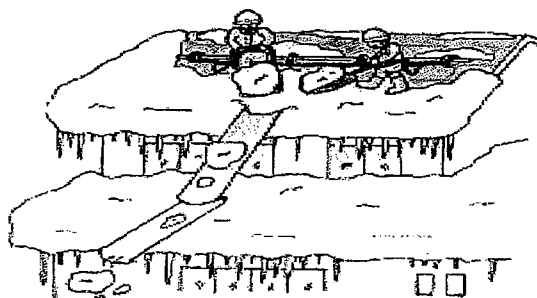
親綱を張り、フルハーネス型墜落制止用器具（命綱）を確実に連結する。
親綱は屋根の形状や作業場所に応じ、固定するアンカーを決める。



- ↑ けらば付近に近づく場合は、親綱固定ロープで主綱または追加した垂直親綱が水平に移動しないような補強が必要。



- ↑ 複数の作業者が屋根上で作業する場合はその人数分、垂直親綱を屋根上に増設する。



- ↑ 親綱は、日本産業規格に適合した強度を満たすものを使用し、ゆるみのないよう、かつ、支持物に確実に緊結する。

雪は棟（上）から軒（下）に寄せるのが原則

- スコップ等での作業が重労働となる場合は、スノーシュート（波板を加工したもの）を使用することにより容易に作業できる。